

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：向島町自治会

開催場所：向島町公会堂

開催日時：平成 28 年 2 月 24 日（水）19 時 00 分～20 時 45 分

参加者：自治会側【地域住民の方 37 人】

市側【染谷市長、三浦秘書政策課長、高橋協働推進課長、秋山協働推進課課長補佐、駒形秘書政策課係長】

内 容

① 宗向島町自治会長あいさつ

・寒い中多くの方に参加いただきありがとうございます。染谷市長から直接お話をいただけるということと、その後、質疑応答の時間もあるので、時間の許す限り活発な御意見をお願いしたい。

② 市長からの市政報告

■はじめに

・私がどんな思いで市政を運営しているのかという、自分の政治信条のお話と最近のトピックスをいくつかお話して、その後、皆さんの質問にお答えしたり、御意見をいただいたりする時間にしたい。そのやり取りを、地域の特性や地域の魅力を活かすということで、これから総合計画も策定していくので、私の市政運営にも参考にさせていただき検討させていただきたいと思っている。

■市政運営について

・この 5 月で市長になって 3 年になる。そろそろ 2 年と 9 ヶ月くらいになるが、「変えよう島田」ということをスローガンにして、皆さんの御支援をいただいて市長になった。その時、私は「信頼されるまち」、「安心実感都市島田」をつくりますよということを約束した。実は、所信表明でも 4 つのことを約束させていただいた。一つは「公平・公正で、市民の声が届く市政の実現」、二つ目は「市政の透明性を高めるための情報公開」、三つ目には、これからの時代において島田市が単独で生きられる時代ではないことから、志太 3 市、あるいは中部 5 市 2 町、県といった様々な形での広域の連携というものを模索しながら島田の優位性を確保し、活性化させていくための「広域行政の推進」、四つ目には「財政の健全化」を目指すことで、右肩上がりの時代、人口がどんどん増えて、土地も高くなって、明日は今日よりも必ず給料も上がってよくなると思っていた時代には、行政はたくさん借金しても、次の時代でも税収が増えていく時代であったため（借金を）返すことができた。今、そういう時代を真逆から見るような、人口は減少しているし、この 30～40 年の間は日本の人口が増えることは難しく減っていく一方である。高齢化がすごく進んできていて、少子化も進んできて、働く人の割合が今 6 割以上いるが、これが働く人の人口が全人口の半分くらいしかいないという時代になると、働く人たちで働いていない高齢の方たちや子ども達の面倒を見ていかななくてはいけない。

そういう時代になるということは、今、生きている我々は、今生きている時代の必要なことは、自分たちの時代で何とかしていこうやという基本的な姿勢がないと、次の私たちの子どもや孫の時代に、自分たちの考えで新たな投資、事業をやりたいよといっても、市が財政難でそれもできないという街になったら、若い人は魅力を感じない。住んでくれなくなってしまう。そのためには、今、たくさん使うというよりも、ちゃんと10年先を考えながら、島田の未来を考えながら、お金を使っていかないと、そのために選択と集中を重ねていかないといけないと私は思って、「財政の健全化」ということをお話した。

・別に貯めるのが趣味ではない。貯めるということは、使うところがあるから貯めるのであって、そのメリハリをきちっとつけながら島田の街の発展を図っていききたいというのが私の考え方である。

・右肩上がりの時代は、市長は自分の任期で何をやるかということが、その市長さんがやったこと、あの市長は何を造った。その市長はこの道を造った。というふうに。しかし、これからの時代の市長は、10年先の島田、20年先の島田のために、今何を選択するかという、そういうことが今の私の役割だと思っている。自分のときだけいいのではない。そここのところは完全に、時代が変わったんだというふうに私は思っているの、10年先にここに暮らす人たちが豊かに暮らせる社会をつくるために、今自分は何を判断するかということが自分の仕事だと思っている。

・それ以外にも自分の役割があると思っていて、一つ目は選挙の時に、「変えよう島田」といったくらいなので、一度いろいろなことをリセットしてチェンジしますよということで、例えば病院の街中移転というようなものも、今の野田のところに建てようとしているが、そういった大きな方向転換をさせていただいた。二つ目は、皆さんも良く御存知の森昌也先生、昭和28年に島田の市長さんになられた。この昭和28年に（市長に）なられた時に、「市民の手による市民のための市政」を実現するということをおっしゃった。これはたぶんリンカーンが言った「ガバメント・オブ・ザ・ピープル・バイ・ザ・ピープル・フォー・ザ・ピープル」という言葉を引用されたのではないかと思う。森さんの時代には、島田は本当に大きな発展を遂げて、市民会館もできたし、紀文、ネスレ、クノールなどの企業誘致もできたし、本当に大きく発展した時代だったと思う。その森さんがお辞めになったのが、昭和48年である。この時森さんは、「島田は小さな街であっても、そこに暮らす人たちは国際人なんだ。自分はこの街を量的に発展（道路ができたり、どんどん街が大きくなっていく）した上に、いかにそこに質的な発展を載せるかということが、この街の暮らしやすさ、豊かさになる。」ということをおっしゃって引退された。私は3年前に市長になったが、ちょうど公開討論会があって、市長に立候補している人がお互い市民会館で、こういう街をつくりたいというお話を、その市政討論会が5月10日で、森さんの葬儀の日と同じだった。その時にも森さんのお話はしたが、森さんが昭和28年に市長になってからちょうど60年目に自分はその後を継ぐように還暦で60年経って自分の番になった。その時に、「市民の手による市民のための市政」の実現ということ、そこでもお話させていただいた。これは、今どういうことかということ、右肩上がりでなくなった時代の新しい価値観というものは、市民の皆さんとつくっていかなくてはならない。そのためには、これまではなんでもかんでも行政がやればよいという考え方や、行政もこれやります、あれやりますという方針で街を活性化していったけれども、限られた財源の中で、限られた人口の中で高齢者も増えていく中で、地域の力なくして街は豊かにはならない。今、地方創生といって島田も「島田市まち・ひと・しごと地方創生総合戦略」をたてさせていただいた。都市間競争が激しくなって、飛びぬけたいいくつかの街は人口が増えるかもしれないが、ほとんどどこも減っていくようなそういう時代になってきた時に、同じ街の中の地域でさえも、やっぱりそこに「自分たちの地域をよくしていこう。自分たちの地域の課題を皆で一緒に考えよう。」という人がいるかないかで、その地域にものすごく差が出るようになってきた。

・これは島田の中でも同じで、例えば、コミバスが来なくて高齢者を病院に連れて行けないという話題が（車座トークで）出た。もしも地元の方たちが、ボランティアで運転手をしてくれるなら、行政は小型の10人乗り程度の車と、保険というものは地域にお出しすることはできる。ただ、お金を取ってやってしまうと白タクになってしまうので、お金を取らないでやってもらわなければいけないが、市民の皆さんが、うちの地域の課題を解決するために、そういうことをやってくれるのであれば、行政はそれに対してできることがある。

・また、去年だったか、湯日小学校、初倉の小さな小学校で全校児童で30人ちょっとくらいしかいない。複式学級をやっているところ。そういうところであっても、働くお母さんが増えて、小学校1年生が放課後児童クラブに行かなくてはいけないということになった。一番近い小学校の初倉南小学校まで5.5kmある。歩いていかせるわけにもいかない。だからといって行政がタクシーで運ぶというわけにもいかない。地元の方に御相談したら、自治会長さんがまとめてくださって、いいよ、帰りはお母さんが迎えに行くんだろ。学校が終わって送るだけなら毎日ボランティアが自分の車で送っていくからという話をしてくれた。行政はそれに対して、車をお借りする代金、ガソリン代、ちょっとした人件費という金額をお支払いしている。このように、その地域にある課題を解決するために、全部行政にと言われてもなかなか難しいところがある。

・もう一つ例を出すなら、今年の夏、ものすごく暑い夏で、熱中症がすごく増えて、御高齢の方は部屋でもなるということで、保健師に気をつけるように、エアコン（のスイッチ）が皆ついているかということをお話した。保健師の話を知ったら、実際は、冷房ではなくて暖房にスイッチが入っていたりとか、設定温度が32度だったり、エアコン入れようと思ったらテレビがついたなど、地域の見守りの目がないと、いくら保健師がそういうことを言って回っても、なかなか難しいなと思った。地域の目が届く街をつくるには、島田は10万人規模の人口で、とてもいい規模だと思っている。昔からのネットワークがあって、親の代、そのまた親の代まで知っている人たちが集って暮らしている地域なので、是非そういう地域力が発揮できる、そういう街をつくっていきたいと思っている。

・三つ目には、私の政治理念というか、政治信条については、この3年間（市長を）やってきて、つくづく政治は何のためにあるのかということをお話したら、究極のところ「そこに住む人の命を守る。」ためである。弱い立場にいる人の生活を守るために政治があると思っている。島田は所得の高い方もたくさんいる。一方で年金だけを頼りに暮らしている方も増えていて、しかも高齢者のひとり世帯も増えていて、高齢者でなくても今、晩婚化だとか未婚化だとかということもあって、世代間を問わず一人世帯が増えてきている。中には生活保護以下の年金で暮らしている方も増えてきている。そういう現実問題がある中で、ここに暮らす人たちが安心して住み続けられる、そういう施策を堅実にしていくことが政治のベースなんだと思っている。これは私の政治信条である。そのためには、財源も稼がなければならない。そのためには雇用も生まなければならない。稼ぐ産業をつくっていかなければならない。企業も誘致しなければならない。色々なことをやらなければならない。しかし、景気回復や産業の発展は「手段」であって、本当の意味での「目的」ではないと私は思っている。本当の意味での「目的」は、やっぱりここに住む人たちの暮らしを守ることにある、それが政治の根本だと思っている。派手さはないかもしれないが、これをきちっと貫いていくことが島田市民の安心につながるんだと信念を持ってやっている。

・そのために、今、医療、介護、子育て、教育、福祉、こういったものに一生懸命力を入れてやっているところ。一つには子育て支援も一生懸命やっている。この子育て支援については、私自身は理念を持っていて、全国的には今、子育て支援がサービスの競い合いになっている。サービスの競い合いという

のは、医療費をタダにします。給食費をタダにします。保育料をタダにします。こういう施策。保育料のタダは3人目以降だとか必要なこともあると思う。ただ、医療費のタダについては、島田は1回500円をいただいているが、もちろん所得の低い方からはいただいているが月に最高4回まで500円をいただいている。それでも、4億円くらいを子ども医療費にかけている。これをまるっきりタダにするには、あと7,500万円足さなければタダにならない。この7,500万円のできる施策はたくさんある。給食費も、人件費も施設費も光熱費も様々なものは行政が準備している。給食費でいただいているのは、材料費だけ。しかし、この材料費だけで年間4億円になる。この給食費をタダにする、この4億円を実施するならば、どこからかその4億円を削ってくるか、ほかにもできる事業を我慢して給食費をタダにするかということになる。しかし、優先順位として給食費のタダが本当の施策なのかと思うときに、私はこのお金で他にやれることがいっぱいあると思っている。そういう意味で島田は、学校現場に島田市単独の予算で71人支援員を各学校に配置して、手厚く子どもをみるということをやっている。生まれて半年くらいのお子さんのところには、30時間を基本として、(問題があればもっと行くが)無料で保育師を派遣して、お母さんが困っていることはないかとか、上の子と遊んでいる間、赤ちゃんをみってくれるとか様々なサポートしている。あるいは障害のあるお子さんがいる家庭には、保健師や保育師を出してお母さんたちを助けるような事業も実施している。高齢者施策については、「新総合事業」ということで、できるだけ要介護、要支援にならないように、元気で暮らせるようにというところに力点を置いて「介護予防」に力を入れて様々な施策を実施している。一人暮らしの方のところに、500人くらいに週に1回必ず電話をかけて、困っていることがないか、変わったことがないかということ電話させてもらっている。もし、何かがあったときには、20、30分以内には市の職員あるいは民生委員が必ずそのお宅に行けるというような体制をとっている。トイレで倒れていたとか、ちょっと怪我をして動けなくなっているとか、そういうことが過去にもあった。

・安心して暮らせるためには、なかなか皆様のところ、物ができれば「パッと目に付く」が、そうではないけれども、ここで暮らす人のために、いかにしたら暮らしやすいかということを一生涯懸命やっているというのが現状である。

・子育てのことでいうならば、平成29年度を目指して待機児童を「ゼロ」にするために、一生懸命やっている。毎年、毎年、待機児童が増えて、働く世帯が増えて、共働きでないと暮らせなくなってきたという現状があると思う。そうした中で、3歳以上は待機児童は出ていない。待機児童が出ているのは、2歳児以下の子どもたちとなっているので、向谷に2歳未満の子どもだけを見る60人定員の保育園とか、他の地域には部屋の中でお預かりできるお子さんのための保育園等をつくっていく予定となっている。もう一つは、放課後児童クラブといって、小学校の6年生までをみることにしているが、5、6年生はほとんどいない。基本は1年生から4年生まで。去年の今頃は、待機児童は4人しかいなかった。すこし定員オーバーすれば何とか吸収できた。今年は125人もいて、既に2教室増やしてもそれだけの人数がいる。これで抜本的な解決策を図っていかないと、これまでのように学校施設にお願いをしているだけではなかなか難しい状況になってきた。このため、市としては、教育施設は市の施設なので、かなり強い権限をもって空き教室は放課後児童クラブに使うように改良するということを教育委員会を通じて校長会に通達を出している。一小、二小、四小、金谷小あたりは、4月に間に合うか、5月、6月までには増築ができると思う。ただ、空き教室がない、初倉や六合は、庭にどんどん建てているがそれでも足りない。このため、老人施設にお願いしたり、保育園にお願いしたり、幼稚園にお願いしたりしながらこの放課後児童クラブを増やしていかなくてはならないという状況も新たに生まれてきている。

医療制度改革への対応（地域医療の充実に向けて）

- ・向島町の世帯数は昨年（2022年）の12月31日現在で464世帯、人口が1,236人、65歳以上の高齢者が381人、高齢化率は30.8%。島田市の高齢化率は29.0%。子どもの数（15歳以下）は156人で割合は12.6%、島田市の平均が13.8%なので子どもの数はちょっと少なくなっている。全体的にみれば平均的な数値となっている。昨年（2022年）の9月の敬老の日で調べた限りでは、75歳以上の高齢者は14,800人いた。この75歳以上の人たちの後期高齢者医療費が平成27年度（2015年度）島田市は100億円を超える。75歳未満の国民健康保険に加入している方の医療費が平成27年度で65億円に達しようとしている。生活保護費は約5億円。今、市の一般会計は364億円程度となっているが、一般会計の3割くらいがこうした扶助費という福祉や医療や介護にかかるお金となっている。これが28年度の予算では、約32.8%となるので3%くらい増えている。3%というと10億円になる。こういう扶助費が増えていくと、子どもの事業に回すお金だとかがなくなってきている。だからすごく大きな問題となっている。国も高齢者の医療費が1兆円づつ伸びている。国の借金はすでに1,100兆円を超えている。このまま増えたら、国ももうやっていけなくなる。
- ・国は2025年（団塊の世代の人たちが全員後期高齢者になる年）を目指して、大幅な医療改革をやるようとしている。これまで、最後は病院で施設でという方が多かったが、これを在宅へという流れ。介護保険制度ができてから10年程度経過して、家でみていた方を病院へ、施設へとなり、今は施設などに預けることはしょうがないと誰でもが言うと思うが、10何年前、私の初倉の近所では、「あそここのころの嫁さんが施設に入れたんだってよ。」と噂になるような時代もあった。この介護保険ができてから、そういう流れは、みんな施設を利用するんだという流れになってきた。それを在宅に戻そうということ。
- ・「時々入院、ほとんど在宅。」というのが高齢者の医療を診ていくという現実になろうとしている。島田市内の開業医も高齢化してきていて、島田の医師会に41人のお医者様がいますが、息子さんや娘さんが後継ぎとして帰ってきてくれない。みんな息子さんや娘さんはお医者さんなんだけれども、がんセンターで働いているよとか、大学病院にいるよとかいう人ばかりで、あと5年経ったら往診に来てくれる先生も少なくなってしまう。そういう現状がある。
- ・こうした中で、この28年度から島田市は、健康づくり課でやっている訪問看護と病院でやっている訪問看護をあわせて、一体にして「24時間訪問看護ステーション」を病院の北側に健診センターがあるが、そこの3階に「24時間訪問看護ステーション」をつくる。お医者様の指示書というもの（今はタブレットでいくらでも送信できる。）に基づいて、看護師が8人体制で皆様のお宅にたとえ真夜中でも伺って医療措置をするということになる。75歳以上だと基本的には1割負担となり、所得の高い方は2割となる方もいるが。こうした入院できなくても安心して在宅へという流れのために島田市も「24時間訪問看護ステーション」をつくる。
- ・国の大きな制度の変化というのは、人口減少、高齢者が増えていることとか、そういうことと密接に絡んで国も方針転換をどんどんしてきている。まだはっきりしていないが、1割負担が2割負担になり、お金のある人たちからは3割もらいましょうという時代が来ると思う。そうしないと、今度は子育てにお金をかけられなくなる。先進諸国では、フランスや北欧など子どもが増えているところは、例えば幼稚園や保育園も義務教育と同じようにお金はタダです。医療費は国を挙げて子どもの医療費はみましますよ。3人以上子供を産んだ人には、特別家にも働いている人と同じくらいの税の控除であるとか上乗せだとかでちゃんと子どもさんを産んだほうが得になるようなシステムをつくっている。そういうシステムがあるから合計特殊出生率というものが上がっていくことになる。今、平均で2.07という一生に女性が2.07人以上子どもを産まないとい人口は維持できない。しかし1.41が平均で、島田は1.51

くらいだが、これでは人口維持には程遠い状況となっている。島田のことをもう少し詳しくいうと、結婚している方たちは平均して2人以上子どもを産んでいる。したがって、結婚する比率が高くなれば、島田は合計特殊出生率2.00を超えるかもしれない。残念ながら島田は、男性の生涯未婚率（一生に一度も結婚しない人の率）は15%を超える。女性でもその半分くらいの割合となっている。平均して結婚する年齢が、女性で29歳、男性で30歳くらいになってきている。30歳になってから子どもを産もうとするわけなので、女性には産める年齢というものがある。せいぜい40歳位まで。30歳で結婚して、これから3人子どもを産むといってもなかなか難しい。やはり20歳半ばで結婚して、子どもを産めるような社会になっていかなくていけない。ところが今は、大学を出て、就職したら結婚よりも先にキャリアを積みなければならない、一人前にならなければならない、10年くらいは働かなければいけないような、そういう社会に日本がなってしまうている。単独の市が考えるだけでなく、国を挙げて考えていかないと、こういう問題は変わっていかない。国はあれやれ、これやれと基礎自治体に色々言ってくる。しかし、我々にできることと、国がやらなければいけないことがある。やはり国がやらなければいけないことはきちっとやっていくし、この前、NHKで「超少子化時代」という特集をやっていたが、その場のアンケートで、例えば、子育て支援税のような税金ができれば、払いますかという問いに8割の方が「払ってもいい。」という結果を出していた。そういうきちとした目的ならば、負担も仕方がないねという民意というか、それはできつつあると思う。結婚しない人、子どもを持たない人、この人たちは、いずれ子どもを産んでくれた子どもの世代にお世話になる。したがって、子どもがたくさんいる社会をつくっていくためには、みんなが働き方も生き方も変えていかなければならないという時代になってきたなと私は思う。

■新病院の建設について

・平成27年度に基本計画を策定し、平成28年度は基本設計に入っていく。平成32年度に完成を目指しているが、その市民病院はどんな病院になるのかということについて、今、全国から病院設計で名だたる業者が手を上げて、一次審査が終わって6社が残ったところ。この6社がどういうコンセプトで、これからの病院を考えているのか。どういう提案があるのかということ、さっきお話した情報を開示するという事の中で、3月13日（日）午前9時から「みんくる」で、市民の皆様や議員の皆様にも来ていただいて、新たな病院のコンセプトや考え方、これからできる病院のかたちというものを皆様に聞いてもらいたいと思う。どの会社もこの基本設計をプレゼンテーションするまでに、300万円から500万円のお金をかけて準備をしてきている。一社あたり50分から1時間くらいの持ち時間になるので夕方4時までかかる。是非御都合のつく時間に来ていただいてこれからの病院ということと一緒に考えていただけたらありがたいと思う。

・新しい病院は、療養病床をなくした。これまで523床でしたか、35床の療養病床がある。新しい病院は445床ということで、精神科と療養病床がなくなる。なぜ療養病床をなくしたんだということで議会等でも御質問をいただいた。島田の療養病床はよその病院から移ってきて、長期の療養をするための病院ではない。長期に入院している方は1～2人いるが、この方々はこれからも市民病院で診ていく。島田の療養病床は、一般的には次の行き先が決まるまでの、暫くいていただくベットとして活用しているので、それは一般病床の中でみていくことを決めた。なぜそんなことを決めていくかということ、今島田の病院は急性期の指定をいただいている救急病院である。救急病院は7：1といって、患者さん7人に対して、看護師を1人以上つけるという決まりがあ

る。しかし、療養病床というのは、13：1であったり、15：1であったり、救急病院の配置と違う。今は病院丸ごと7：1の指定を受けているが、厚生労働省は、急性期期といって高度医療を行う病院、島田市民病院のような救急病院、慢性期の病院、療養の病院というふうに、病院を分けていこうという、病院丸ごと指定をしていこうとする動きを持っている。現実的にはこれは非常に難しいことだと思っていて、お年寄りも胃で入院しているかもしれないが整形外科にも通っているし、耳も悪いかもしれない。いっぺんにいくつも通っている。しかし、この患者さんが急性期を脱したから、こっちの病院へ、こっちの病院へとやることが現実かという私はそれは難しいと思っている。国はそういう考えの中で、診療報酬の改定もどんどんどんどんきつくなっている。こうした中で島田市民病院は、急性期の病院に特化していきますよということの中で、445床ということになった。また、精神科もなくなるということになった。精神科は平成19年からお医者様がいなくて閉鎖した状態でずっときている。入院患者を預かるとなると精神科の医師が4～5人はいないと入院患者を診ることができない。この専門家の精神科の医師を4～5人集めるということは大変厳しいということの中で精神科は難しいと。それ以外は、今の診療科目は全て維持をしていくと決めている。

・総工費は今247億円と見込んでいるが、これもできるだけ設計、建築の段階でコストダウンができるように思っている。オリンピックを控えて大丈夫なのかということをお聞きするかもしれないが、今オリンピックを前にして、国立競技場が高すぎてダメになってもう一回やり直しになっている。あのようにならぬように青天井のように上がっていくことはなさそうである。ましてや日本の経済が、オリンピックが過ぎたあとどうなるのかということが騒がれているので、島田市は自分の道を歩んでいく、堅実にやっていくことが大事になると思っている。

・お医者様が足りないということでは、今市民病院には94、5人いると思うが、できれば100人以上ほしい。しかしその100人以上がなかなか集まらなくて苦労している。今や島田の病院は京都大学系の病院とはいえなくなっている。京都大学からはもう面倒が見られなくなっている。(京都大学が)静岡で面倒が見れるのは、せいぜい県立総合病院くらいだというのが京都大学の見方でして、なぜかという、昔のように教授が、お前こっち、お前あっちといって、采配を揮う時代ではなくなっていて、学生が自分で研修先を見つける時代になった。京都大学の研修医は、関西圏から出たくない、関西の言葉が伝わるせいぜい三重が限界だという。静岡まで医師を派遣してもらおうことが難しい中で、浜松医科大学の方に2、3ヶ月に1度は必ず学長に会いに行って、医師の派遣、島田の市民病院にお願いしたいということをずっと言っている。他にも山梨医大に行ったり、服部事業管理者とともに医師の確保ということで一生懸命がんばっているというところである。

■街中のにぎわいについて

・蓬萊橋周辺も多くの観光客が来るが、何も建てられない状況であったが、国土交通省の許認可も少し緩やかになって、地元協議会を設立するならば御土産物の販売する建物を建ててもいいという流れに変わってきた。28年度には地元の協議会を設立して、早ければ28年度中に、遅くとも29年度当初に、お休み処と物品販売所を造っていきたいと思っている。そこに、牧之原台地を開拓した中条景昭等をこの島田に送り込んだ勝海舟の銅像を建てて、勝海舟は開拓団に激励の手紙を送っている、そういったものを合わせながらやってまいりたいと思っている。

■市民会館について

・市民会館については、5月の当初くらいに解体が始まる。昨年11月の補正で解体の設計費用を出ささせていただいて、当初予算で解体の費用を出しているの、5月くらいには工事にかかれると思う。できれば10月を目指して、あそこを更地にして、当面の間は広い駐車場とイベント広場、災害時の避難場所として使えるようにしたい。

・2年ちょっとあそこに（解体せずに）置いたわけだが、置いた私の心情は、市役所の庁舎も築53年となっている。私の市長室も雨漏りはしないが雨漏りの跡だらけとなっている。合併を重ねて職員が入りきらないほど狭い。合併特例債というのが、平成32年までに造るなら使えるということがあって、建て直すなら市民会館のところしかないと思っていた。国も壊してそこに新しいものを造るのであれば補助金を出す。しかし、壊すだけだと補助金が出ない。これからの時代は、壊すだけでも補助金を出さないとダメだと思うが、まだ国の体制は次々に造られていく時代の体制のままで、壊すだけでは補助金が出ないという中で、市は単独で2億円かけて市民会館を壊すことになった。その前の昨年3月に、市役所の庁舎は当分の間は使い続けるという方針を出した。というのは、市役所の庁舎を建てるのには50～60億円かかるとし、市民会館を単独で建てるなら70～80億円はかかるとし、年間にホールでお客様が入るのは約30日であった。365日中30日。確かに島田に市民会館があることは、本当に誇りであったし、大勢の芸能人が来てくれたし、観光バスが連なっていつも止まっていて、島田に市民会館があることは私たちの誇りだった。文化の香る島田だった。しかし、先にできたということはそれだけ先に使えなくなっていく時がくるということ。こういったものは当面の間、広域で使わせていただくという中で、焼津の文化センター等を使うときに、1回50万円市が補助を出すことにさせていただいている。商業高校とか色々、市民会館を使って色々やってきたけれども、よそに行かなければならなくなった時に、1回50万円という補助金を出しながら、それをお願いしている。

・市役所の庁舎を建てなくした理由は、病院に247億円といったが、このうち医療機器に40～50億円かかる。建物の償還は30年払いとなるが、医療機器は5年で返す。原価償却は5年。なんでそんなに短いといわれるかもしれないが、最新の医療機器も5年も経つと古くなってしまふ。だから償却年数5年で借金を返さなければならない。そうすると最初の5年は借金を返すのが大変になる。その時期に、同じように合併特例債を使って建てたら、市役所の返済も大変になる。そういうことは計算したらできないわけではない。しかし、それをやれば余力が減る。国道473号と新東名の場所ににぎわい交流拠点を建てようとして明日、島田市とNEXCO中日本と大井川鐵道とJA大井川4者が代表者が揃って記者会見をする予定であるが、島田に新しい産業や新しい人やお金が落ちる仕組みをつくるためには、その投資をしなければいけない。こういったお金を使うために、市役所の庁舎は暫く我慢するという判断をした。お通りのホールの女性用のトイレも洋式にしたし、市役所のトイレも暫く使うということであれば洋式化するとか、皆様が使いやすいように替えていく。そういうことはするけれども当面の間、使いながら島田の街を発展させていくことの方を先にやりたいというのが私の考えなので、是非御理解をいただけたらありがたいと思う。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1-1	<p>■平成 26 年 2 月 12 日に開催された市長と語る会で、向島町公園が話題になって、少しずつ計画を立ててやっていきますよというお話をいただいたが、去年は予算 300 万円をとって計画を色々作るということでお話されていたが、公園課（市街地整備課）の方に我々も行って話をしている、聞いているが、「お話しすることは無い。」と言われてしまって、それではしょうがないなという感じで帰ってきている。これからどのような方向でいかれるのか。今の話を聞いていると、公園まで手がつかないのではないかというような感じの話に聞こえてしまう。</p>	<p>●平成 27 年度に 300 万円の予算をつけて基本計画というものを、今年の 3 月 31 日までにつくることになっている。28 年度以降は基本計画に基づいて、整備計画というものをつくっていきたいと思っている。私もここにお邪魔するにあたって、必ずこの公園の話は出てくると思っていたので、全体で 2.5ha で、うち市が買い取っているところは 2,000 m²くらいで 10 分の 1 くらいのところしか買取ができていない。一方で、家がどんどん建ってしまっていて、向島三ッ合線ですか、この沿線に沿ってある家、ここに入って来る途中に、新しい道路をつけて宅地開発された（向島公園区域の東のはずれ）、昔若松町 6 号線とやろうとしたところも家が建ってしまっている。若松町 6 号線は平成 25 年に断念したということ調べてきた。地元からは平成 18 年に要望が上がっていて、公園が進まないなら、この道路を先にやってくれという御要望をいただいたということなんだけれども、なかなか地権者の合意とか難しいことがあって、平成 25 年には、断念したというふうに聞いている。その道がどういう道か、さっき見てきたが、新しい家が建ってしまっているの、とてもそのときの計画どおりに増やすことは難しい状況になっている。</p> <p>●当時の資料を見たら、昭和 38 年に向島町公園が都市計画決定されている。平成 10 年の単価でこの用地を買いと 14 億円以上する試算がある。これに加えて、公園にするために 6 億 6,600 万円程度の事業費が必要であるという試算もされている。両方あわせると 21 億円を超える金額となる。この金額が示すとおり、いっぺんにはできないことを御理解いただきたい。</p> <p>●公園の用地に指定されている中に、宅地化が進んで家が建ってしまっている。その家まで用地買収して、立ち退いてもらって公園にすることは現実的には難しい。</p>
1-2	<p>■長く経てば経つほど、家が建ってしまう。残った用地はどうしようもなくなってしまう。</p>	<p>●私も本当にそう思う。なんでこういうことになったのかなと思う。今、向島三ッ合線も交通量が多くて、あの沿線ということで、今、市が持っている土地もこの沿線に沿っている。ただ、沿線に面したほかの土地もあるので、こうした土地の開発だとか。（を考えると全てを公園にしていくことは難しい。）また、平成 25 年に断念した若松町 6 号線が今では整備が困難な状況にある。</p> <p>●常にタイミングを逃すというか、そういう状況の中で、これまでできてしまっているの、これからどうするかということは、すごく難しい問題となっている。しかし、私は公園は徐々にでも整備すると平成 26 年に（ここに来た時に）言っている。</p> <p>●実は十何年島田市は公園を 1 m²も増やさないという政策をとってきた。</p>

1-3	■それはどういうわけか。	●前の市長さんの政策。
1-4	■しかし、他の所では造っている。	●いいえ、他の所でも全く進んでいない。
1-5	■北部の方では整備されているのではないか。	●あれは溶融炉という迷惑施設を受け入れたその代償というような形でやっているところであって、都市計画上の公園用地として指定されたところは、桜井さんの時代には全く整備ができなかった。その十年間、整備してこなかったことの中で、フェンスは倒れ掛かってたり、朽ちていたり、用具が壊れていたり、あるいは、イノシシが掘った穴が開いていたりしている。フェンスを換えるだけでも1年ではとても換えられない。1つの公園のフェンスを3年も4年もかけて順番で換えていかななくてはいけないというように、公園の整備が遅れている。そうした中で、ここが目玉としてやるには、単なる公園だけではなくて、他に何か目的がある、インバウンドのお客様たちが来るところがあるとか、何かしらの事情がないと、急激に大きくはやれないという状況の中で、27年度にたてた基本計画をもとにしてやっていかななくてはいけない。 ●県に、都市計画決定の中で、公園用地として指定をしたところというのは、もしそこに家が建ってしまっているから、その家の部分は公園用地から外しますよということを行ったとする。そうすると、外した分どこかに公園用地を指定しなさいということをお県は言う。ただ、削ればいだけではないから本当に難しい話となっている。
1-6	■何もやらないところを何のために用地を確保しているのか。	●公園というのが、市街地の中の何%位とか基準に合うように公園用地として指定している。
1-7	■指定しているなら、少しずつでもやっていかななくては、何の意味もない。	●十分にわかっている。しかし、滞っていたものをいきなり始めるといっても、色々な予算的な問題もあって、例えばこの公園だけではなくて、元島田公園については、なぜかアパートと病院が建ってしまっている。そこに離れ小島ができてしまっている。ああいうのもどうしようもない。
1-8	■あれはおかしいね。ああいうことしちゃあいかなんということになっている。	●だけどできちゃっている。それを私は引き継いだ。
1-9	■許可を出すのは役所じゃないのか。	●そう言われると心苦しい限りだが、それは政策的な判断があって、トップの判断でそうなっている。今であればそんなことは見えない話ではあるが、当時はそういう計画を認可してしまって家が建ったり、色々なものができてしまって、今度それが後手、後手になって、これからどうするんだといったときに、本当に長い時間と少しずつということしか御理解いただく方法がない。道路も若松町6号線が難しいという状況の中で、どういうかたちで、皆様が御要望されるのかを合わせてこれからの方向を一緒に考えていく必要があると思っている。
1-10	■役所では、あれはダメ、こうしてはダメと言うが、もう決め	●私自身の考え方の中には、都市計画決定されていても、こういう矛盾がいた

	られてしまっているでしょ。公園敷地内は。地下を掘ってはダメだとか。大きな建物はいかんとか。どうしますかということは、こっちはどうすることもできない。役所でやってもらわないと。指定されてしまっているから。	るところに出てきている。
1-11	■指定されているところは既に住宅地になってしまっているところもある。	●だからそれを現実にあわせる改革をしなければいけない。都市計画決定を変えていかなければいけない。
1-12	■その基本計画を、この前300万円だかかけて作っているんですよ。その計画が、こっちには全然、どういう基本計画ができたかわからない。	●まだ、策定中。年度末に出来上がるということで。27年度予算でやっているの。私もこの計画が出来上がってきているのを見ていない。27年度の末、3月までには上がってくると思う。
1-13	■それは、その時になればどういうふうになっているかということがわかりますね。	●基本計画というものは、見せてくれといえれば見せることはできると思う。
1-14	■その整備計画というのは、最終的には公園を造るという前提で計画を立てるということでもいいか。	●その公園が指定された面積全てを整備することは難しいと思う。
1-15	■官公庁の色々な絡みの中で、諸条件があつてなかなか難しいということだが、そういう中でもどうするのかということ。	●小さくしてでもそこに公園を造りたいと私は26年に来た時に言った。その理由というのは、この街の中に防災上の観点から緑地の部分が街の真ん中には少ない。そういう意味でも、この公園は価値があると、私はその時そう話したと思う。その気持ちは変わっていない。しかし現実には時間がかかって少しずつしかできないということも現実。 ●この2.5haのうち、実際に家が建っている中で、どこまでを公園とするか、今市が持っている土地と離れた飛び地を買ってもしようがない。一段の土地にならないければ公園にならない。そのところをどういうふうに少しずつでもやっていくのか。
1-16	■宅地化されて、残ってしまったところは、リヤカーも通れない道ばかり。どうしようもない。ある程度、計画を立ててやってもらわないと、後に残った者が困ってしまう。	●おっしゃるとおりだと思う。最善のときを逃すというか、それがあつたと思っていて、実は全く違う土地の話になるが、六合の駅南の狭い道路ばかりなので、面的に整備をして広い道路にして区画整理をしようとして平成6、7年頃にやろうとして。しかし、減歩といって自分の土地が少し狭くなる。公共用地に提供しなくてはならないため。その減歩をいやがって、反対する方が多くて現実には道路がつかれなかった。今になって、道路をつくってくださいと言われても、まちづくりとして面的な整備ができる状況ではない。だから、幹線道路をつくって、その幹線につながる枝線を整備していくという整備の仕方をやろうとしている。時代とチャンスを逃すと道路一本そうだし公園もそうだし。
1-17	■狭い道路を何本もつくってもしようがない。	●つじつまあわせのようなことがたくさん出てきてしまった。
1-18	■特に島田はそういうことが多いと思う。道路1本もない。	●おっしゃることはよくわかる。現実には長い間引き継いできたものが、タイミング、チャンスを逃すとできなくなっちゃう。現実にはその時には、反対する方が多かったり、色々な事情があつて地元ができないといつてやめることも多

		い。
1-19	■それは、役所がリーダーシップを持ってやってもらわないと。前の市長のことを言ってもしょうがないが、これから何とかして進めてほしい。	●こんな言い方したら失礼かもしれないが、国民が土地を持っていない国だったら、全て国土なので、好きなように道路だって、高速道路だって好きに造れる。なので、見る見るうちに街が変わっていく。でも日本は国民の方が土地を持っていらっしゃるの、それを強制的に取り上げることもできないし、ヤダという人に引っ越してもらうこともできないわけで、どうしても行政のリーダーシップと言われても御同意いただかなくては動かすことができないということも現実。おっしゃることは良くわかるが、私が引き継いだ時点で少しずつやらせていただくとしか言いようがない。今持っている土地に合わせて、少しずつでも広げてやっていきたいと思う。
1-20	■公園は継続するのかやめるのか。	●止めるということは私は決めていない。
1-21	■決めていないということは、最終的には市長が決定するのか。失礼だと思う。質問事項を投げた方に。前の市長がこうこうしたからこうだ。今、3年間経ってきて、3年間の中で、そこの打ち合わせをどういうふうにして、どこまで進めてきたのか。卑怯だと思う。規模を小さくしてもやりますよとか言って、おざなりで通らないことだと思う。	●公園用地は既にも買ってある。
1-22	■買ってあるが、それなら公園用地を売っちゃって、財政に補助すればいいじゃないか。	●あそこは公園用地として指定しているところである。
1-23	■指定しているではなく、撤回しないとどうしようもない問題がでてきませんかということを行っている。	●これは将来的には今の規模のままではできないということを皆様に御説明しなくてはいけないときがくると思う。
1-24	■くるのではなくて、実際にくるよりも、それを決断しなくてはいけない時期でしょ、当事者の方々に伝えるにあたって。	●そのために調査を行っている。
1-25	■調査ではない。	●2,000㎡の公園にするのか。もう少し買い足して、もう少し広い公園にするのか、そここのところの決断はまだしていない。
1-26	■そうすると、それに対して計画の300万円を使うのか。	●もう使って、基本計画を27年度に策定している。それが3月頃までにはできるということ。基本計画にかけたお金は27年度に執行している。
1-27	■300万円執行したのなら、今年もまた金額はいくらになるのかわからないが、かけていかないと継続できない。	●28年度はこの基本計画をつくったので整備計画をつくる。
1-28	■（計画が）できているなら発表してもらいたい。	●それは今策定をおこなっているということで、3月までにはあがるということを行っている。基本計画をもとに整備計画を策定していくが、この整備計画の中で、買い足すことができるのならどこを買い足すことができるのか、筆も分かれていると思うし、いっぺんに大きくは買えないし、そこをどうするかという計画を立てていく。卑怯ということですね。
1-29	■卑怯とは言わない。はっきり物をいってやったらいかがです	●この整備計画の中で、決められた時点でお話するしかないなと思っている。

	かと言っている。	今すぐに、ここまでは買い足しますとか、ここは買えませんとかということは、今の時点では言えない。
1-30	●実現は可能なのか。	■たとえ小さくても公園にするのかという質問なのか。一番小さく考えれば、今ある土地でということであればできる。
1-31	●やるんですね。	■やります。
1-32	●何年にやるのか。	■いつというのは、その整備計画の中で、土地を買い足さないのであれば、そんなに時間はかからないと思う。たくさん広く買い足そうと思えば時間はかかる。
1-33	●現状の状況で造りますよと。その造る計画に対して、計画の図面はあるんですね。	■それを整備の計画をするのが28年度。
1-34	●去年からどのような状況をつくってきて、今日にあたって、3月にこういうふうにしますよという計画は皆が知るわけですね。	■今年の3月にその基本計画ができてくる。どういうものになって出てくるかは、私はまだ見ていないし報告を受けていないのでわからないが、担当の市街地整備課からは、28年度にはそれ（基本計画）に基づいて、整備計画を作っていくという事は報告を受けている。
1-35	●そうすると、それに対して、周りの所有している土地の方々が、こういうふうにされたときに、こういう問題がありませんかという質問事項を受け入れられるのか。	■そこを公園にしていくということが決まれば、工事が始まっていくとか、ここをやりますよということになれば、地元の方々に説明をすることは当然のこと。
1-36	●説明したときには、時すでに遅しということはないですね。	■それはどういう意味なのか。
1-37	●死に土地というものができるとはしないかということを行っている。あそこの土地を持っている方からすれば、立ち退きの問題などが最初にあった。しかし実際の問題として、死に土地となってしまうときに、それも飲み込んだプラスαの予算を設けないとえらい問題が起きるから、今実現性が薄いんだったら早くストップした方がいいんじゃないかということ。市はトップダウンでやるのかわからないが、係がいると思うので、その部長クラスがどういうふうに進めて、どういう状況になっているのかを説明してやった方がいいんじゃないかと思う。	■私の方から担当部課長に話を聞くが、ここに公園がほしいというのは、地元の要望だったのではないのか。
1-38	●知らない間に指定されてしまった。	■知らない間に指定されたのですか。
1-39	●この公園の話はもう50年も前から出ている。いつどのように決まったかという経緯はわからないが、先ほどの市長の説明はわかった。市長さんも色々と考えてくれていると思うが難しい案件でなかなか前に進まないと考えている。だから、この3月にまとまる基本計画を、向島町に対してその考え方を整理して説明していただければ、小さいなりに公園になるのか、全くやめるのか、あるいはもう少し拡大するというのか、その辺を	■基本計画がどのような内容なのか見ていないのでわからないが、地元の説明してほしいということですね。地元の皆様にこれからの公園をどうしたいのかということを知りたいということですね。

	向島町として意思決定をしていかななくては、この話は進まない と思っている。	
1-40	■さっき縮小するという話が出たが、縮小したら、その縮小したところから外れた土地は（公園用地として）除外してもらえるのか。桜井市長の時代にも、建設部長さんにもお話をさせていただいたことがあるが、公園用地は指定してしまうと除外できないと聞いている。	●難しい。そこを外すためには、どこか指定して、市全体の公園面積を確保しなければいけない。
1-41	■ということは、縮小できないということか。	●現実で言えば、公園用地に家が建ってしまっているのも現実。
1-42	■今家が建っているところは除外して、そのほかの面積でやっていくことをお願いしてきている。どうしても（家）をどかすということになれば、法律上の条件があるのでどくしかないとは思いますが。	●除外するためには、どこかを新たに公園用地を指定しなければならないということは、現実には大変難しいこと。だからずっとこうやっておいておいたのだと思う。
1-43	■おいておかれても困っちゃう。川があるが、公園指定地になっているので、どこがその川を整備してくれるのか、全然ほったらかしになっている。その場限りの工事になっている。土盛りされているが、雨が降ると一気に水が流れるので、みんな土が流れてしまう。そうすると田の水が穴から抜けてしまう。そういうものはどこに相談すればいいのか。農林課なのか市街地整備課なのか。高木副市長が見に来ている。	●一度現場を見る。
2	■今朝の新聞で、危機管理課の人間が不始末をしでかしたということが出ているが、これについて、市長の考え方を聞きたい。	●本来であれば一番最初に市民の皆様にお詫びをしなければいけないことでした。申し訳ありません。うちの危機管理課の20代の職員が、支出伝票といって、使い終わった課長決裁の伝票数枚と、災害時の要支援者の台帳というものがあるが、それをコピーしたもの。これを、あろうことか静岡駅のゴミ箱に捨てたことが発覚した。発覚したのが19日の金曜日。静岡中央署から電話をいただいて、急いで部長、課長を行かせ確認させたところ、間違いなく市の書類であった。その職員に聞いたところ、その日は自分ではないということだったが、家に帰って奥さんにも相談して次の日には本当に申し訳ないことをしたということで、自分がやったということを書いてきた。理由を聞いたら、仕事が忙しい上に、要援護者の台帳も福祉課とか関連のところにコピーして渡さなくてはならないものがあって、そのコピーをする中で、余分にすってしまったものが出た。本来ならば、それはシュレッダーにかけなければいけない。そのシュレッダーも危機管理課と隣の生活安心課のところにあるが、なぜそう思ったか分か

		<p>らないが、シュレッダーにかけると大きな音が出るので迷惑だと思った、それでシュレッダーにもかけられなかったという。本人は仕事ができない人間ではない、コミュニケーション能力もあって、地域の方からも受け入れられている。だけれども、こういう職員が今回のようなことを起こしたのであるから、私としては昨日の朝一番で、8時30分に係長以上の職員を全部集めて、徹底した仕事に基本にかえること、コンプライアンスの遵守や文書管理を総務課がやるのではなくて、それぞれの課が自分のところの危機管理がどうなっているのかという話、相談できる体制というものが本当に構築されているのかということ、かなり厳しく話をした。29日、来週の月曜日になるが、処罰をどう決めるかという会議を開く。副市長以下の職員でそういった処罰の会議があるので、そこで決定するが、本人だけではなくて、監督責任のある上司、私にも監督責任があるので申し訳なかったと思う。議会でも26日に私から議員の皆様にもお詫びをする。発覚してすぐに関連する団体の方には私からお電話申し上げお詫びをした。</p>
3	<p>■歴代の市長と語る会に出席してきた。その時、市長が一人で今のようにではなくて、各部長が来て、市長に問いただしているのに部長に返事させている。歴代の市長は。今度の市長は、みんなと語り合って意見を集約してやっていく姿というのは、非常に感銘を受けている。ある所でこういうことを聞いた。この市長は、何でもやってくれる、島田市が改革できるようになります。だから1期だけではなくて、2期、3期と続けてやっていただくようにしないとだめですよということを、あるところから話は聞いている。期待している。</p>	<p>●何でもできるということはない。伺った中で、これはやらなくてはいけないということはやるが、できないこともいっぱいある。</p>
4-1	<p>■側溝の件で、向島町の25組の周辺に特種東海製紙があるが、そここのところに側溝あって、その側溝のつくりが真ん中が低くなって両側が高くなっている。真ん中に水がたまり、泥もたまる。夏になるとにおいも出てくる。4月に川ざらいやっても効果が薄い。こういうことはどういうふうに対応すればいいのか。</p>	<p>●この側溝は、特種東海製紙のものではなくて、行政が管理する側溝か。</p>
4-2	<p>■そうだと思う。</p>	<p>●基本は、都市基盤部の土木管理課になると思うが、市長への手紙と表書きに書いてもらって投函してくれれば、必ず私のところに来るので、読ませていただいて、担当に状況を確認させてお返事をする。担当からお電話して状況を確認することもある。</p>
5-1	<p>■すぐやる課は縮小していくのか。</p>	<p>●まったく同じ体制。土木管理課のすぐやる係になっている。すぐやる課とすぐやる係では人員は変えていない。課長を一人削っただけ。</p>
5-2	<p>■官地の草刈をお願いしたらすぐやりますよというお電話をい</p>	<p>●すぐやる係の得意分野は、道路の穴ぼこだとか、そういう補修関連の機材を</p>

	<p>ただいた。1週間くらいで来てくれるのかなと思ったら2ヶ月かかった。聞いたら忙しくてといわれた。</p>	<p>積んで市内各所を回っている。市民からだけで年間2,000件を超える要望があるため、草刈りなど人員を要するものについては、時間がかかったのかもしれない。官地でも、日頃皆様にお使いいただいている道路については、地元の方にも草刈りだとかのお世話をしていただいている。手に余るような状況になったのでこうしてお電話をいただいたと思うので、それをまた2ヶ月待たせたことはお詫びします。</p>
<p>6</p>	<p>■島田市の位置的なことについて、焼津、藤枝、島田、吉田、牧之原など広域の中で、島田市の位置がだんだん低下していくような気がする。リーダーシップをとってくれという話ではないが、各首長とお話をさせていただいて、島田市に有利になる道路だとか用水だとか利用して、なるべく島田の地位が高くなるような方法を考えていただきたい。</p>	<p>●志太の3市がどこが高い低いというものはないと思っている。お互いがウィンウィンになる関係でないと広域の行政はできないと思っている。</p> <p>●この4月から広域の消防を始める。静岡市、島田市、牧之原市、吉田町、川根本町が静岡市の消防に入ることになる。ここには、焼津と藤枝は入っていない。4、5年前に志太広域消防というものを組織しているが、今回も志太の消防も入れればよかったが、向こうもそれなりに初期投資をしている。この初期投資した機器の更新の時期には、静岡県の中中部は消防で一つになれるのではないかと考えている。これによって、人員の増加、資機材の充実、特殊車両だとか消防ヘリだとかの装備。これまでは協力要請をしないと他市、他町から応援が来なかったが、これからは、島田に大きな事故があれば、周辺から何の連絡もせず応援隊が入ってくるようになる。代わりにうちは、沿岸部にもしものことがあれば市の方から助けに行くということもやっていく。特殊な化学薬品によるテロ、爆発などにも特殊訓練を受けた消防署員を派遣することができる。静岡に通信指令があるので、島田から119番しても場所がわからないのではないかとご心配をいただいているが、私も新たにできた広域消防の119番を受け入れる指令所を見てきた。大型のスクリーンの中に、皆さんのお宅（自宅のお電話の局番で）の地図が大写しに出る。携帯でもその受信のエリアのところが入っている。一斉に消防の出動指令が出る。アナログからデジタルへの切り替えは2月3日に行っていて、広域消防が正式に始まるのは4月1日だが、すでに島田の消防署員（6人）が向こう（静岡）に行き受付けをしている。交流もあるが、基本的には島田の生え抜きの者が28年度も島田の消防署にいるし、そういった体制をとっている。静岡市に広域消防を業務委託するという形にはなるが、年に3回はトップ同士が顔を合わせて、課題を整理したり、お話をしながらやっていくこともお約束している。これによって静岡市消防本部は、消防隊員が1,000人規模の消防署になる。大きな災害の時の陣頭指揮にたつのはそれぞれの首長となる。</p> <p>●ほかにも様々な組み合わせがあって、志太の3市のほかに中部5市2町があるが、連携中枢都市圏という構想を持ってやっている。平成17年をピークにして、どこのまちも平成の大合併ということで、多くのまちが合併して全国で</p>

		<p>1,700の自治体にまとまった。10年経ったら合併特例債もなくなる、10年経ったら一つのまちになるといわれたが、10年経っても3つのまちが合併したところは施設が3倍あったり、高齢者サービスを広範な市域でやらなければいけないなど、10年経ってもかかるお金は減らない。そういった中で、合併特例債は10年で打ち止め、島田の場合であれば、島田と金谷の地方交付税を両方分の10年間もらってきたが、もう一つのまちになれたでしょうということで、これから5年かけて、島田の人口規模に見合った地方交付税に減らされていく。この平成の大合併は成功だったのだろうかという考え方もあって、次なる広域というのは、合併というかたちではなくて、例えば保険なら保険で組む、道路なら道路を一緒にやりましょう。公共施設を一緒につくっていきます。ある部分一緒になれるところを、うまく組んでやっていこうとするのが広域。こういった連携中枢都市圏を持ちながらやっている。この間、藤枝の人に島田はいいわね元気だと言われるし、焼津の人は、漁業の町といわれているが、漁業従事者は、3,000人もいないといわれた。隣の芝生は青いということ。広域においても島田が損をするわけでもないし、むしろ島田は国1があって、新東名、東名、国473があって、空港があるという意味では、他市よりもずっと交通結節点としてのポテンシャルをもっているまちである。これからこのポテンシャルをどう活かすかということで、内陸フロンティア構想、国473の賑わい交流拠点の構想等を持っている。</p>
7	<p>■昔、大井川の蓮台越しは、保存会の事務局を向島町でもっていたが、河原町に返した経緯がある。向島町は会員が10人位いるが、会費を保存会に納めている。保存会は賛助金を観光協会に支払っている。祭りのお金は、茶まつりや大祭につき込まれていて、蓮台越しの祭りは行われたためしがない。一度企画したらどうか。</p>	<p>●蓮台越し保存会の皆さんが動いていかないとなかなか実現はしない。蓬萊橋の祭りも関わってくれている方は30年以上同じ人がやっている。これからは、若い人をいかにして入れていくかという課題を解決しないと組織は続いていかない。この保存会も新たな方が入っていく組織であれば、また新たな企画が生まれると思うが、会員の皆さんが高齢化することにより保存会自体の主催事業が出来にくくなっていくのかなということをお話を聞いて感じた。川越街道周辺は「ヒストピア島田」ということで、新しい名前をつけてエリアとして賑わいを創出しようと去年からやっている。今年もその予算をつけている。お客様に大勢来ていただきたいと思っている。</p>

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子

